



紙風船



修学旅行記～宮沢賢治・帰路編



いよいよ最後の訪問地、花巻に向けて出発。道のりは思ったより長く、花巻でのランチが待ち遠しかったです。子どもたちはここでも静かに過ごしました。13時を

まわっての目的地到着。おなかはペコペコ。

待ちかねたランチは「山猫軒」というレストランでとりました。

あらかじめそれぞれが食べたいものを注文していたので、あまり待たずに食べることができました。このレストランは宮沢賢治の「注文の多



い料理店」をモチーフに作られており、店内の雰囲気もお話の内容が反映されていました。

宮沢賢治記念館では、賢治の生涯や世界観、さまざまな資料と作品を見ることができました。難しいかなと思いましたが、子どもたちは真剣に見学していました。

花巻市博物館では、花巻市の歴史と文化にふれることができました。縄文時代の遺跡からの出土品は、ちょうど歴史の学習でやっている時代ということもあり、関心をもって見ているようでした。おもしろかったのは、140万年前のアケボノゾウの足跡化石です。建設当時に発見されたものをそのまま展示にしています。

最後は宮沢賢治童話村へ。

賢治の学校へ続く階段が、降りているのに上っている不思議な階段でした。中には5つの部屋があり、ちょっと変わった世界を体験できました。子どもたちは気に入った部屋を何度もまわっ



ていました。この後国語で学習する「やまなし」の世界も楽しみました。もちろん、最後には売店へ寄って何かしら買い込んだ子どもたち……お小遣いは一体いくら持ってきたのでしょうか？

花巻から桧木内までの帰路はおしゃべりもありました。帰りはいつも「早く帰りたい」気持ちと「終わっちゃったな」という気持ちが入り交じります。

だいぶ到着の時間が遅くなってしまいました。18時30分頃、保護者の方々と先生方に出迎えていただきました。体調を崩すこともなく、全員無事に帰ることができました。

出かける前に3つのことを話していました。

- ①本物に出会うこと（本や画像とは違う）
- ②集団行動であること
- ③友だちや先生の新たな一面を発見し仲良くなること

これらは達成してくれたのではないかと思います。修学旅行を体験したことそのものが、子どもたちの視野を広げ、同時に見聞を広めることにもつながったと確信しています。



送り出してくださった保護者の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

登校時の車の乗り入れについてお願い

□少しでも自分で歩いて学校へ向かうことで、たくまさを育てたい。

□安全面から同じ時間帯に児童と車が交錯することを避けたい。

国道側は社会福祉協議会駐車場、旧道側は旧給食センター駐車場から、歩いて登校するようお願いいたします。

<ほんのささいなつぶやき> yonezawa
経験の一つ一つが人を大きく成長させてくれる。家族から一晩離れるだけでも気付くことは多い。いろいろ見てやっばり桧木内がいいと思いたいものだなあ。